

# 視聴覚教育

NO. 434

発行日

29. 9. 1

発行

岡崎市 A V L

編集

現職研修委員会  
学習情報部

## これ知ってる!?

### 『BYOD』

Bring Your Own Device の略で、私物のデバイスを業務に活用することを表す。授業で子供が自分のスマホやタブレットを使用することも、BYODの一つと言える。しかし、セキュリティやプライバシーの問題など、考えねばならない課題も多い。

## 情報教育を見直す

現職研修委員会学習情報部長 小田 哲也

いつそのこと、「世の中から電気がなくなればよい」と思うことがある。信号が赤になっていても道路を横断する、スマホを見ながら歩道を歩く。そんな様子を横目で見ながら、子供たちは登校している。テレビの報道番組をいともそう思う。誤った言葉や事実と異なる情報を流すことが問題視されているが、子供たちは、これらを見て育っている。

自動信号機やテレビ放送は、一般に利用されるようになって五十年が過ぎた程度だ。スマホなどは、まだ十年である。これらの出現により、安全で文化的な生活が、できるようになったと言えるのだろうか。むしろ新しいリスクが増えたのではないか。できることは増えたが、使うタイミングや使い方、判断などが未熟で、無責任だと感じる場面に出合う。

新聞や読書離れが進み、スマホやタブレットで読む割合が増えている。ネットを使った情報機器で得られる情報は新鮮だ。しかし、表示範囲が限られことから、一度に得られる情報量は、

紙面の方が圧倒的に多い。何より新聞を読むのに、バッテリーが要らない。

道徳の教科化の背景の一つに、SNS の状況や技術革新による新たな倫理問題がある（文部科学省教育課程部会「考える道徳への転換に向けたWG」資料より）。英語のデジタル教科書はよくできていて、利用は欠かせない。学習指導要領改訂により、教育課程の編成にある「言語活動を充実する」に情報活用能力の育成が加わり、小学校の「コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付ける」が、「習得する」となった。

国や社会の一員として規範意識をもち、責任をもって行動するためには、うわべだけの教育ではいけない。機器利用をはじめ、情報モラルや情報活用は、教育において大切であるとわかっていても、今まで踏み込んだ教育が不足していたのかもしれない。教科となった道徳と同様に、実践的な能力育成が急務だ。

赤信号で止まり、青になっても、左右を確認してから渡るように指導している。命を守り、安全で、文化的な生活のために、電気や情報教育があることが、現代の生活基盤である。

## || 視聴覚教育あれこれ ||

### NHK杯放送コンテスト愛知県大会結果

NHK杯放送コンテスト愛知県大会（7月1日）において、次の中学校が入選し、全国大会へ出場しました。おめでとございます。

### ○ラジオ番組部門

優良（全国大会出場）

新香山中 パソコン部

六ツ美北中 文芸部

### ○テレビ番組部門

優良（全国大会出場）

北中 メディア部

### ○朗読部門

北中 田中麻湖

### 各種コンクール募集案内

本年度も、視聴覚・情報教育に関係するさまざまなコンクールが開催されます。児童・生徒の作品を、ぜひ積極的に応募しましょう。

### ○第15回ふるさと岡崎メディアコンクール

生涯学習部門、学校教育教材部門、児童生徒作品部門の3部門。応募要項は後日発表。

### ○第20回キューブ活用コンテスト

キューブシリーズを活用して制作された児童・生徒の作品が対象。昨年は六北小の児童の作品がグランプリに輝いています。

締め切り…平成30年1月5日

### ○第2回日本こども映画コンクール

（毎日映画社主催）

自由部門、自然科学部門の2部門。作品は5分以内。昨年度は北中が準グランプリ、井田小が審査員特別賞に輝いています。締め切り…平成30年1月8日

## 実践報告II

楽しく効果的に発音を学ぶ

奥殿小学校 阿路川昌宏

言葉を覚え、発音やイントネーションを学習するための効果的な方法として、「チャンツ」があげられる。このチャンツの効果をより高めるために、チャンツの音声に合った映像をパワーポイントで作成し、大型ディスプレイで提示した。

子供たちは、文字が大きくなったり、トマトがバウンドしたりする様子を見ながら発音練習に取り組んだ。「フレーズが覚えやすい」「チャンツが楽しい」という声が聞こえ、子供たちが楽しく発音練習に取り組む姿が、教室に溢れるようになった。

また、正確な発音を練習するために、ALITが発音している様子をデジタルカメラで撮影し、大型ディスプレイで提示した。これでネイティブスピーカーの口の動かし方を視覚的に理解したり、言い回しやイントネーションを耳で聴き取ったりすることができるようになった。ALITが来校する日は限られているが、ALITの発音を録画しておけば、いつでも正確な発音を練習することができ

る。「何回も見ているとALITの口の動かし方が分かってきた」という感想からも、効果が確認できた。

これからも、発音・発声を大切にしたい外国語活動のために、ICTを効果的に使っていきたい。



## レッツ・トライ！ICTII

### 今回紹介する機能

#### OKタスク「日々の記録」

子供たちの委員会や部活動などの様子について、職員間で情報を共有したいことがある。そんなときに便利なのが、OKタスクの「日々の様子」だ。校内の職員なら誰でも、全ての児童・生徒の様子をOKタスク上にメモとして残すことができる。一日に一人、週に数人でも、児童・生徒の様子を、「日々の記録」にメモしておけば、多くの情報が集まることになる。このメモでは、入力されたデータの時系列に並べたり、各教科や表彰など細かなカテゴリーに分けて登録ができたりすることから、その子が、いつ、どんな場面で、どう活躍したのかを、具体的に記録しておくことができる。

まず、OKタスクの「日々の様子」をクリックする。次に、学年、組、児童・生徒の名前を選択し「登録ボタン」をクリックする。日付とカテゴリを入力し、コメントを記述すれば、それでデータが残る。一件書くとに数分とかからない作業である。子供たちを認め、励ますための大切な情報を、曖昧な記憶でなく、正確な記録として残していきたい。日常の業務に、ほんの数分の手間を加えるだけで、それがすぐに可能となる。学校全体で、ぜひ組んでみてはいかがだろうか。



(豊富小学校 学習情報主任 海藤 健児)

## ライブブリーディング

### ●情報モラル出前講座のお知らせ

スマホ等を介したネット利用が、学校内外での事件・事故につながったり、長時間の利用で生活の乱れを引き起こしたりする事案は近年ますます増えていきます。子供たちに、ネット利用の問題点を目を向けさせたり、自身で利用ルールを決めたりできる情報モラルを身に付けさせることは、喫緊の課題です。そのため、視聴覚ライブラリーでは年間を通じて情報モラル出前講座を行っています。職員が学校に向き、児童・生徒や保護者を対象に講演や研修を行います。ネット社会の危険な一面について情報提供したり、トラブルに巻き込まれないための具体的な方法について説明したりします。

申込は、視聴覚ライブラリーホームページの「情報モラル出前講座」のリンクから申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、ライブラリーに提出してください。FAX(23-6794)での提出も可能です。その他不明な点があればライブラリーまでお問合せください。



### ●教材の貸出についてのお願い

教材の貸出は、巡回郵便で学校に送ることが可能です。巡回郵便を希望される場合は、予約システム入力の際、利用目的欄に「巡回郵便希望」と入力をお願いします。